

---

## 環境美化に取り組んで



秋田県鹿角市：佐藤 博久

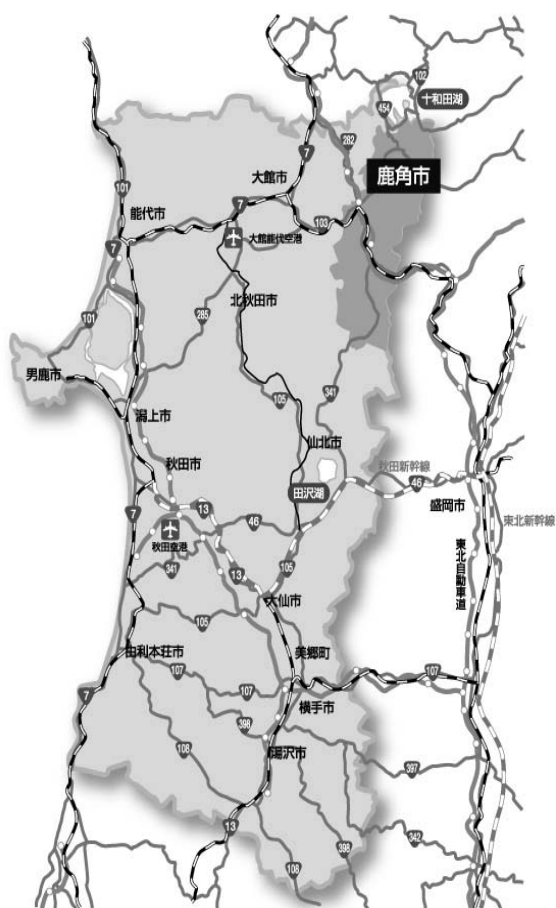
---

### 1. 経営の経過

|       |                                                                                              |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和23年 | 義父の佐藤 稔が山形県から入植                                                                              |
| 昭和36年 | 乳牛2頭を導入し酪農を開始                                                                                |
| 昭和47年 | 22頭牛舎建築                                                                                      |
| 昭和48年 | 結婚で佐藤家へ                                                                                      |
| 昭和49年 | 28頭牛舎を増築し50頭牛舎になる                                                                            |
| 昭和51年 | 牛群検定開始                                                                                       |
| 昭和57年 | 牛群審査開始                                                                                       |
| 昭和60年 | 第8回全日本ホルスタイン共進会出品                                                                            |
| 平成7年  | 第10回全日本ホルスタイン共進会出品                                                                           |
| 平成10年 | 日本の牧場スタンプラリー参加                                                                               |
| 平成15年 | スラリー貯留槽建設                                                                                    |
| 平成19年 | 牧場のホームページ公開<br>( <a href="http://www2.ocn.ne.jp/~ripen/">http://www2.ocn.ne.jp/~ripen/</a> ) |
| 平成20年 | 酪農教育ファーム認証 農業機械用車庫新設                                                                         |

## 2. 地域の立地条件と特徴

鹿角市は秋田県北東部、秋田・青森・岩手県の県境に位置し、十和田湖八幡平国立公園に代表される観光と農業の町です。農業分野では稲作・果樹の他に、十和田地区を中心とした酪農や「鹿角短角牛」「八幡平ポーク」といった畜産業が中心となっています。



牧場がある十和田地区は国立公園十和田湖の南東側に位置する標高500mの広大なシラス台地の高原地帯で、年間平均気温8℃程度と冷涼な気候で夏には「やませ」の影響を受ける為27℃を超えることはほとんどありません。11月から4月にかけて積雪があり多い時には2m程にもなります。

十和田地区は昭和二十年代に原生林を開墾した開拓地で、入植当時は電気の無いランプ生活で、農作物は毎年のように「やませ」や霜の被害に遭うため、この地で収入を得る為には牧草を育てて酪農をするしかない状況でした。現在でも草種はチモシーが主体になっています。

十和田地区に酪農組合が発足したのは昭和49年で、当時は酪農家戸数34戸、乳牛頭数は200頭程でした。現在は酪農家戸数12戸、乳牛頭数600頭、平均草地面積30haと県下有数の酪農地帯となっています。



### 3. 経営スタイル・経営方針・経営の特徴

およそ80haの草地を活かした土地利用型の酪農経営を行っています。『家族で経営する規模で良いので、良質な粗飼料を生産することで牛を大切に飼う』というのが経営方針です。粗飼料は100%自給しており、コーンサイレージの通年給与を行い、牧草は一番草だけで一年分の必要量を確保しているため、二番草等の余剰分は販売に回しています。

また、十和田地区では収穫適期が天候により左右され晴天が短い為、適期を逃さずに収穫を行える様、機械類は全て自家で所有しています。

更新牛は全て自家育成でまかない、継続的に改良を進め、より良い牛づくりに取り組んでゆく事を目標にしており、共進会にも積極的に参加しています。



### 4. 努力していること

酪農教育ファームの認定を受けている事もあり、来場者が牧場や酪農に抱くイメージを極力壊さないように牛舎や牛舎周辺の環境を整える事に気を配っています。

牧場のホームページを開設しており、牧場の四季や作業風景の紹介のほかに、ブログを毎日更新する等、情報発信を通じて酪農の魅力を伝えたいと考えています。





経営面では過剰な設備投資は控え、特に機械類は車庫の中で保管するなど、長く大切に使うことを心がけています。

前述のように、当地区の土壌はシラス台地であり、良質粗飼料の生産の為には土壌改良への取り組みが必須となります。土壌改良剤や完熟堆肥を多量に土壌還元しながら計画的に牧草地の更新に取り組んでいます。

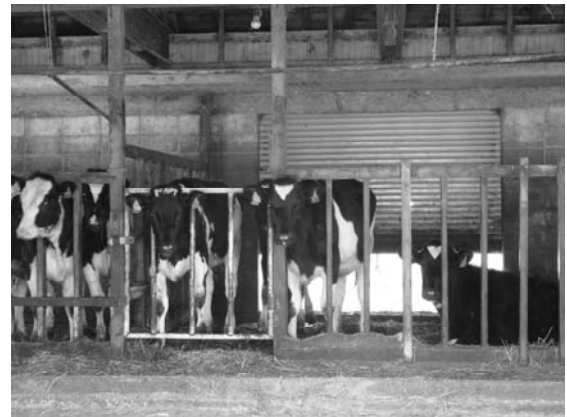
## 5. 経営上の問題点と対策

更新率を低くすると高能力牛群にはなるが体細胞は高くなる傾向があり、逆に初産の比率が高くなると体細胞数は低く抑えられるものの、個体乳量が頭打ちとなり経営的にもマイナスになります。そこで、牛群検定を継続的に実施し個体能力の把握と選抜淘汰の基礎データとして活用しています。更新は全て自家育成で充当しており、育成期に良質乾草を十分に給与する事が優秀な後継牛の確保に繋がると考えています。

牛群構成（H22.3時点）

| 未經産 | 初産  | 2産  | 3産  | 4産  | 5産以上 |
|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 11頭 | 15頭 | 11頭 | 12頭 | 5頭  | 9頭   |
|     | 29% | 21% | 23% | 10% | 17%  |

搾乳牛舎の老朽化が現在の問題となっています。既存の施設で労働効率の向上を図る余地がどのくらいあるのか、更新を選択する場合の資金の問題を含めて後継者ともども良く検討して行きたいと考えています。



## 6. 飼養管理で心がけているところ

牛を健康に管理して病気を予防する事を第一に考えています。その為に乾草を十分に与える事を大前提とし、常に牛の状態を観察しながらの給餌を心がけ、乳量・ボディコンディション・糞の状態などの変化によって給餌量の微調整を行っています。

健康を目に見える形で証明したいとの考えから、プロファイリングテストを実施し血液成分の数値を確認しています。

## 7. 地域、消費者との交流

平成20年には酪農教育ファームの認証をうけ、小学生らを対象にした搾乳体験やバター作り体験を定期的実施しています。毎年夏休みの時期には鹿角市が行っている東京都葛飾区との交流事業に協力し、葛飾区の小学生を受入れています。

このように様々な体験学習を通じて自然や生命の尊さを感じてもらい、食育や子供たちの将来につながる機会を提供できればと考えています。

また、地域の仲間と一緒に鹿角市の産業祭に毎年参加して、十和田地区限定の牛乳や乳製品・ソフトクリームなどの販売を行い、地元の牛乳・乳製品のPRと消費拡大に努めています。



## 8. 私は思う (これからの目標)

よく牛乳は栄養食品という言い方をされますが、イメージの飲み物という側面もあると思っています。一般の方々は牛乳といえば、青草の茂る広々とした牧場でのびのびと牧草を食む乳牛から生産されるものというイメージを少なからず持っているのではないのでしょうか。これは「良質な粗飼料を生産することで牛を大切に飼う」ということにも通ずるわけですが、一般の方々は店頭で牛乳を手にする時、毎朝コップ一杯の牛乳を飲む時に、こういったイメージも含めて牛乳を見

ていると私は思っています。

「酪農家以外の一般の人から見て牧場の環境は良好か。」例えば、「体験学習で来場した子供たちが『また来たい』と思えるような環境であるか。」といったことが牛乳生産現場にとって大切なポイントだと思います。そう考えると私たちには消費者を意識した取り組みが大切であり、環境美化への取り組みを続けているのもそのような思いからです。

牛乳消費の低迷や仲間である酪農家戸数の減少など、経営を維持しながら消費者を意識した取り組みを続けてゆくには決して楽な時代ではないと思いますが、これからも家族の絆、そして消費者とのつながりを大切にしてゆきたいと思えます。

## 9. 経営の推移

| 項目               |                  | 年度                  | 平成20年      | 平成21年      | 平成22年      |
|------------------|------------------|---------------------|------------|------------|------------|
|                  |                  |                     |            |            |            |
| 規<br>模           | 飼<br>養<br>頭<br>数 | 経産牛(頭)              | 50         | 53         | 52         |
|                  |                  | 未經産牛(頭)             | 11         | 9          | 17         |
|                  |                  | 育成牛(頭)              | 12         | 11         | 10         |
|                  |                  | 子牛(頭)               | 6          | 13         | 16         |
|                  |                  | 合 計                 | 79         | 86         | 95         |
|                  |                  | 労働力(人)              | 3.5        | 3.5        | 3.5        |
| 乳<br>量           |                  | 総乳量<哺乳・自家消費用含む>(kg) | 492,186    | 477,243    | 496,596    |
|                  |                  | 経産牛1頭当り乳量(kg)       | 9,844      | 9,005      | 9,550      |
| 乳<br>質           |                  | 乳脂率(%)              | 4.02       | 4.05       | 4.11       |
|                  |                  | 無脂乳固形分率(%)          | 8.77       | 8.65       | 8.62       |
|                  |                  | 体細胞数(万個/ml)         | 18.0       | 23.0       | 26.0       |
|                  |                  | 細菌数(万個/ml)          | 13.0       | 14.0       | 9.0        |
| 状繁<br>況殖         |                  | 平均種付回数(回)           | 1.8        | 1.9        | 1.9        |
|                  |                  | 分娩間隔(ヶ月)            | 12.8       | 15.0       | 14.0       |
| 経<br>営<br>分<br>析 |                  | 総乳代(円)              | 47,191,210 | 48,702,055 | 50,674,260 |
|                  |                  | 子牛・育成牛・肥育牛販売代金(円)   | 3,267,850  | 3,727,300  | 4,992,900  |
|                  |                  | 乳飼比(%)              | —          | —          | 35.32      |
|                  |                  | 総農業所得(円)            | 11,119,400 | 13,446,523 | 11,700,680 |
|                  |                  | 所得率(%)              | —          | —          | 20.38      |
|                  |                  | 生乳1kg当り生産費(円)       | —          | —          | 78.90      |

## 10. 経営の成果（当期費用と生産原価）

（単位：円）

| 科 目         |        | 金 額        | 経産牛1頭当<br>金 額 | 生乳1kg当<br>金 額 | 摘 要       |
|-------------|--------|------------|---------------|---------------|-----------|
| 購入飼料費       |        | 17,898,518 | 344,202       | 36.04         |           |
| 自給飼料費       |        | 4,136,842  | 79,555        | 8.33          |           |
| 敷料費         |        | 0          | 0             | 0.00          |           |
| 労<br>働<br>費 | 雇 用    | 617,925    | 11,883        | 1.24          |           |
|             | 家 族    | 7,280,000  | 140,000       | 14.66         | 1         |
|             | 計      | 7,897,925  | 151,883       | 15.90         |           |
| 素牛購入費       |        | 0          | 0             | 0.00          |           |
| 診療衛生費       |        | 1,585,678  | 30,494        | 3.19          |           |
| 水道光熱費       |        | 1,070,547  | 20,587        | 2.16          |           |
| 動力費         |        | 1,205,460  | 23,182        | 2.43          |           |
| 種付料         |        | 752,727    | 14,476        | 1.52          |           |
| 償<br>却<br>費 | 乳 牛    | 3,918,108  | 75,348        | 7.89          |           |
|             | 建物・構築物 | 812,688    | 15,629        | 1.64          |           |
|             | 機械車両   | 2,679,343  | 51,526        | 5.40          |           |
|             | 計      | 7,410,139  | 142,503       | 14.92         |           |
| 修繕費         |        | 3,248,546  | 62,472        | 6.54          |           |
| 小農具費        |        | 2,172,913  | 41,787        | 4.38          |           |
| 消耗資材費       |        | 920,521    | 17,702        | 1.85          |           |
| 賃料料金        |        | 307,984    | 5,923         | 0.62          |           |
| 費用合計        |        | 48,607,800 | 934,765       | 97.88         | 2         |
| 期首育成牛子牛評価額  |        | 2,561,000  | 49,250        | 5.16          | 3         |
| 合 計         |        | 51,168,800 | 984,015       | 103.04        | 4=2+3     |
| 期中経産牛繰入評価額  |        | 2,712,680  | 52,167        | 5.46          | 5         |
| 期末育成牛子牛評価額  |        | 2,533,000  | 48,712        | 5.10          | 6         |
| 育成牛子牛販売収入   |        | 3,882,900  | 74,671        | 7.82          | 7         |
| 副産物価格       |        | 2,860,000  | 55,000        | 5.76          | 8         |
| 差引生産原価      |        | 39,180,220 | 753,466       | 78.90         | 9=4-(5~8) |



1 1 . 経営の成果（酪農部門の損益）

（単位：円）

| 区 分             |               | 金 額        | 適 要             |
|-----------------|---------------|------------|-----------------|
| 酪農収益            | 牛 乳 収 入       | 50,674,260 | 自家消費分含む         |
|                 | 育 成 牛 販 売 収 入 | 0          | 頭               |
|                 | 子 牛 販 売 収 入   | 3,882,900  | 27頭 7           |
|                 | 厩 肥 販 売 収 入   | 0          | 交換分含む           |
|                 | そ の 他         | 2,860,000  | 8 乾牧草・廃用牛販売代金   |
|                 | 計             | 57,417,160 | 10              |
| 生産費用            | 期首育成・子牛評価額    | 2,561,000  | 3               |
|                 | 当 期 費 用       | 48,607,800 | 2               |
|                 | 期中経産牛繰入評価額    | 2,712,680  | 5               |
|                 | 期末育成,子牛評価額    | 2,533,000  | 6               |
|                 | 差 引 生 産 費 用   | 45,923,120 | 11=3+2-5-6      |
| 売上総利益           |               | 11,494,040 | 12=10-11        |
| 一般販売及管理及び       | 販 売 経 費       | 4,350,253  |                 |
|                 | 共 済 掛 金       | 2,118,939  |                 |
|                 | 租 税 公 課       | 995,063    |                 |
|                 | 計             | 7,464,255  | 13              |
| 事業利益            |               | 4,029,785  | 14=12-13        |
| 事業外収益           | 受 入 共 済 金     | 341,749    |                 |
|                 | 配合飼料価格差補填金    | 564,410    |                 |
|                 | 償却対象牛処分益      | 223,750    |                 |
|                 | そ の 他         | 2,407,044  | 受取利息転作奨励金組合還元金等 |
|                 | 計             | 3,536,953  | 15              |
| 事業外費用           | 支 払 利 息       |            |                 |
|                 | 支 払 地 代       | 860,427    |                 |
|                 | 配合飼料価格差積立金    | 111,600    |                 |
|                 | 償却対象牛処分損      | 1,458,905  |                 |
|                 | そ の 他         | 715,126    | 書籍購入、研修参加費      |
|                 | 計             | 3,146,058  | 16              |
| 当 期 純 利 益       |               | 4,420,680  | 17=14+15-16     |
| 所 得             |               | 11,700,680 | 18=17+1         |
| 所 得 率           |               | 20         | 19=18/10        |
| 当 期 償 還 金       |               | 0          | 20              |
| 償 還 金 控 除 後 所 得 |               | 11,700,680 | 21=18-20        |